

Bonjour

ボンジュール!!

2017年
4月28日号
Vol.354



フランス大統領選、決戦は5月7日

● マクロン氏・ルペン氏決戦へ

4月23日、フランス大統領選の第1回投票が行われました。

事実上支持率20%前後を獲得している4候補の争いとなり、その結果、中道・独立系候補のエマニュエル・マクロン前経済・産業・デジタル相が1位、極右政党・国民戦線(FN)のマリーヌ・ルペン党首が2位となりました。

いずれの候補も過半数を獲得できず、大統領の選出は上位2名で争われる5月7日の決選投票に持ち越されることになりました。

● 注目の争点は欧州連合(EU)統合

反EUのルペン氏、親EUのマクロン氏が上位2名に残ったことで、市場が懸念していた反EU候補で決戦が行われるというフランス大統領選に関する最大のリスクは回避されたと思われます。それを受け、市場では欧州の政治リスクが低下したという安心感からユーロが上昇(対円)し、国債利回りも上昇しました。

昨年「ブレグジット・ショック」の記憶がまだ新しいところですが、結果次第ではEUの将来にも大きな影響を及ぼす恐れもあり注目です。

● ユーロ圏の経済状況は？

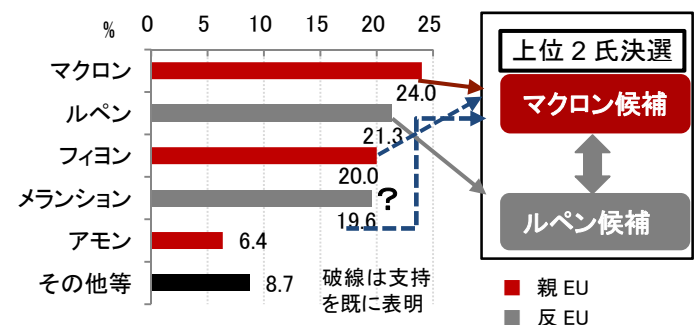
イタリアやドイツなど欧州主要国では選挙戦を控えており、政治リスクなど懸念材料がありません。しかし、ユーロ圏では、財政政策や緩和的

な金融政策、ユーロ安が追い風となり、IMFは2017年の成長率予想を1月時点から上方修正しました。ユーロ安が輸出を後押しし、製造業や貿易の回復の恩恵を受けることが期待されます。

4月27日、欧州中央銀行(ECB)は理事会で、金融政策の現状維持を決めました。ドラギ総裁は「景気回復はよりしっかりしている」とも発言しており、雇用の増加と賃金上昇が消費を拡大させるという好循環がユーロ圏で生まれつつあると見られます。

物価の上昇傾向が見られるかどうか今後の注目ポイントとなりそうですね。

■ 仏大統領選挙第1回投票の得票率



※フィオン: 共和党(中道右派)のフランソワ・フィオン元首相、マランション: 左派党の元共同党首、アモン: 社会党ブノワ・アモン前国民教育相
※マランション氏の?は決選投票では自主投票を呼びかけているため
出所: フランス内務省データ、各種報道等を参考にピクテ投信投資顧問作成

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。